



【浦河小学校の教育目標】
「自ら学び心豊かに 自分の夢や
希望の実現に励む子の育成」
「かしこい子」「心ゆたかな子」「たくましい子」

発行：令和 3年1月22日

B☆Bが浦小に来たあ〜！

5つのミッションを任せられ浦河にやってきた

浦河町特別アドバイザーである日本ファームファイターズのマスコットキャラクター『B☆B』が1月20日に浦河小学校に来てくれました。午前中のわずかな時間ではありましたが、各学級を訪問してくれ、オルガンで曲を演奏してくれたり、一緒に写真を撮ってくれたり、質問に答えてくれたり、サインを描いてくれたり、様々な要望に応じてくれました。B☆Bはテレビで見るより大きくて、とてもたくましく、かっこよく見えました。一言もしゃべりませんでした。ジェスチャーや筆談（黒板に文字を書く）でいろいろな質問に答えてくれました。突然の訪問でびっくりしましたが、本当に楽しい時間を過ごすことができました。

浦河町では、昨年の4月からB☆Bを浦河町特別アドバイザーに任命し、『The HOME B☆B～みらい大志プロジェクト』として下記5つのミッションをお願いしました。また、今週1週間（1/18～1/24）はずっと浦河町に滞在し、各学校や様々な行事に参加してくれるようです。



The HOME B☆B～みらい大志プロジェクト～

「B☆B」はただ浦河に遊びに来ているのではなく、浦河町特別アドバイザーとして5つのミッション（使命・役割）を任せられています。それは、

- ①馬文化の発信～全国屈指の馬産地である浦河町の馬の魅力をB☆Bと一緒に発信します。乗馬にチャレンジし、町の乗馬大会出場を目指します。
- ②ふるさと納税の推進～返礼品である町の特産品の魅力をB☆Bと一緒にPRします。
- ③浦河町の魅力発信～まちのイベントや情報、魅力をブログやYouTubeどんどん発信します
- ④移住体験の推進～何度も浦河町を訪問し、地域の人たちと触れ合いながら暮らしを体験します。
- ⑤子どもたちとのふれあい～学校訪問したりして町の子どもたちに元気を与えます。



以上のミッションを通して私たちのふるさと浦河町を盛り上げてくれています。

より一層注意をお願いします

朝夕の登下校時や自動車での送り迎え時は特に注意を?!

いつもの年の倍以上の積雪と冷え込みで、朝夕は特に道路がとても滑りやすく危険な状態です。登下校中の子供たちの様子を見ていると、慎重に歩きながらも時々転んでいる姿も目にする可能性があります。学校では毎日各学級で注意を促していますが、家庭においても『いつてきます』の前に一言声掛けをお願いします。また、いつもお願いしていますが、自動車での送り迎えの時、乗り降りには十分注意するようにさせてください。時折、車道側のドアから降りる児童の姿も見られます。大変危険ですので、絶対にやめるようにさせてください。

さて、3学期もおよそ2週間が過ぎようとしています。大学入試のセンター試験が終わったというニュースや公立高校の願書受付が始まったということが報道されています。数年後には、まだ小学生だと思っていた我が子が迎える大きな壁（試練）であることは間違いありません。まだまだと思わずに、関心を持って話題にしていきたいと思います。

一方でコロナ関連のニュースは相変わらず毎日報道されています。最近では東京都で感染者が1000人を超えた、北海道でも200人を超えたというニュースを聞いても、あまり危機感を感じなくなってきたように感じます。評論家は政府の対策に批判的な報道がよくされていますが、何といっても感染して困るのは自分自身と家族です。これからは今まで以上に、自分ができる感染防止対策をしっかりとるようにしてください。また、どんなに備えていても感染することは誰にだってあるということを常に頭に入れながら、自分や家族、そして友達や周りの人のためにマスクを忘れずにすることを心がけてください。



備えあれば憂いなし！阪神淡路大震災から26年

6434人の尊い命を奪った阪神淡路大震災（1995.1.17）から今年で26年目を迎えました。

この大震災は、M7.3、震度7の兵庫県南部地震による被害で、戦後発生した地震による被害としては東日本大震災（2011.3.11）に次ぐ大きな規模の被害でした。亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被害にあわれた方々へお見舞い申し上げます。

さて、『天災は忘れた頃にやってくる』とよく言われます。地震や津波などの自然災害は（人の力では）防ぎようはありませんが、それに備えて準備することはできます。

学校では、地震や火災が発生したことを想定して年間2回の避難訓練を行い、グラウンド等に避難しています。もちろん実際に地面が揺れたり、火事が起こったりするわけではないので、みなさんは冷静に行動ができます。しかし、もしこれが夜中に突然起こったり、札幌のデパートで起こったらどうでしょう。誰もが驚き、パニックになり、われ先にと争って逃げることにより、きっと大きな被害をもたらすことと思います。そうならないために避難訓練を行っているのです。もしもの場合に備え、家族との連絡方法を確認したり、避難経路・避難方法を確認することは日ごろから心がけておきたいものです。“備えあれば憂いなし”です。

（※教頭先生は、26年前のこの阪神淡路大震災の時、被害の大きかった神戸市に住んでいたそうです。さしいわい家族は奇跡的に助かりましたが、辺りは地獄のような悲惨な状態だったそうです。）